

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第26週に、29件の報告があり減少傾向が続いています。一方で、東京を中心とする首都圏では、増加に転じており、感染の再拡大が強く懸念されています。リバウンドを起こさないため、感染拡大防止対策を徹底しましょう。

【参考】第41回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(令和3年6月30日)(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00256.html

2 RSウイルス感染症

定点当たり1.67人の報告があり、前週からは減少しましたが、多い状況が続いています。症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、特に生後数カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいといわれています。咳等の呼吸器症状がある人との接触を避け、おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒、手洗いの励行に努めましょう。

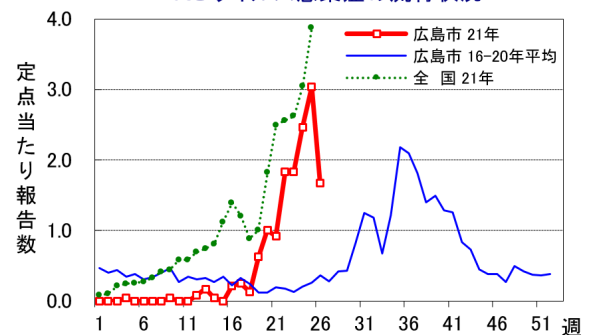
【参考】RSウイルス感染症Q&A(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

3 流行性耳下腺炎

定点当たり0.46人の報告があり、例年同時期より多い傾向です。

RSウイルス感染症の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間 平均（注）	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間 平均（注）	発生記号
フィルン	インフルエンザ	-	-	-		小児科	流行性耳下腺炎	11	0.46	0.23	
小児科	咽頭結膜熱	9	0.38	0.66		小児科	RSウイルス感染症	40	1.67	0.36	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.25	2.22		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.15	
	感染性胃腸炎	61	2.54	4.77		眼科	流行性角結膜炎	2	0.25	0.75	
	水痘	1	0.04	0.34		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	1	0.04	4.00			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.41			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.14	
	突発性発しん	8	0.33	0.38			クラミジア肺炎（オウム病を除く）	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	5	0.21	1.17			感染性胃腸炎（ロタウイルス）	-	-	0.11	

急増減

増減

微増減

横ばい

↑

↗

↘

⇨

前週と比較しておおむね1:2以上の増減

前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 （小児科定点を含む）	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

（注）過去5年間の同時期平均
（定点当たり）

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	52	50歳代、80歳代
4	E型肝炎	1	5	30歳代
4	レジオネラ症	1	20	60歳代
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	6	60歳代・2人、80歳代・1人
5	梅毒	1	30	20歳代
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	11	80歳代

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウィ ルス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎	(感染性 胃腸炎 (ロタウ イルス)
報告数	広島市	第22週	-	17	12	132	3	2	-	12	-	1	44	-	-	-	-	-	-	-
		第23週	-	14	5	104	6	2	-	9	1	-	44	-	2	-	-	-	-	-
		第24週	-	13	8	78	1	1	-	11	-	2	59	-	-	-	-	-	-	-
		第25週	-	16	10	62	2	-	1	8	3	4	73	-	1	-	-	-	-	-
		第26週	-	9	6	61	1	1	1	8	5	11	40	-	2	-	-	-	-	-
定点 当 たり	広島市	第22週	-	0.71	0.50	5.50	0.13	0.08	-	0.50	-	0.04	1.83	-	-	-	-	-	-	-
		第23週	-	0.58	0.21	4.33	0.25	0.08	-	0.38	0.04	-	1.83	-	0.25	-	-	-	-	-
		第24週	-	0.54	0.33	3.25	0.04	0.04	-	0.46	-	0.08	2.46	-	-	-	-	-	-	-
		第25週	-	0.67	0.42	2.58	0.08	-	0.04	0.33	0.13	0.17	3.04	-	0.13	-	-	-	-	-
		第26週	-	0.38	0.25	2.54	0.04	0.04	0.04	0.33	0.21	0.46	1.67	-	0.25	-	-	-	-	-
	全国	第24週	-	0.43	0.59	3.23	0.11	0.12	0.01	0.43	0.11	0.06	3.05	-	0.20	0.01	0.02	0.04	-	-
		第25週	-	0.38	0.58	3.11	0.10	0.11	0.01	0.43	0.15	0.05	3.87	-	0.19	0.02	0.02	0.02	-	-

■ 広島市における新型コロナウイルス感染症の発生状況(確定日で集計)

【第26週(6月28日～7月4日)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	計
2	-	3	4	6	3	5	3	3	-	29

【累計報告数(7月4日現在)】 ※2020年からの累計報告数です。

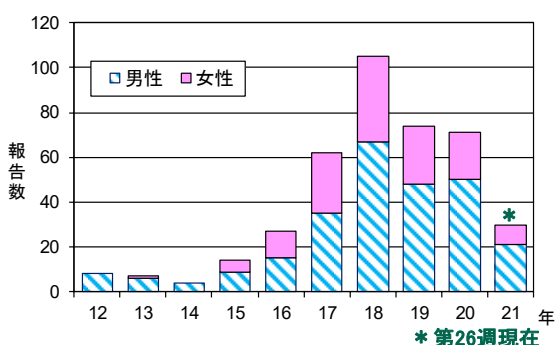
10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	計
272	526	1,759	1,126	1,172	1,010	697	609	470	67	7,708

「風邪かな?」と感じたら、かかりつけ医や
コールセンター(積極ガードダイヤル)TEL:082-241-4566 に連絡・相談しましょう。

* 新型コロナウイルス感染症に関する最新の発生状況、相談窓口等については、広島市ホームページ
「新型コロナウイルス感染症に関する情報(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/>)」からご確認ください。

【参考】広島市における梅毒の発生動向について

梅毒の年間報告数の推移(2021年第26週現在)



今年の累計は、第26週の時点で30件(昨年同時期は31件)になりました。報告数は2018年をピークに減少傾向ですが、多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。

梅毒は性的な接触により感染し、感染後3～6週間の潜伏期を経て、陰部等の感染部位にしこりができたり、鼠径部のリンパ節が腫れることがあります。治療せずに放置すると、時に無症状になりながら進行し、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすこともあります。

また、妊娠中に感染すると、胎児に感染し、死産や早産等が起こることがあるため、早期発見・早期治療が大切です。

梅毒に感染した恐れのある方は、医療機関を受診しましょう。また、感染した方のパートナーなど、周囲で感染の可能性のある方も検査を受け、一緒に治療を行うことが重要です。

【参考】「梅毒に関するQ&A」(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2021年第26週(6月28日～7月4日)